



泉小だより

合言葉「笑顔であいさつ、すすんで学ぶ、泉の子」

令和3年6月21日

No. 3

佐久市立 泉小学校

運動会を通して育まれたもの

5月29日は、保護者や地域の皆様のご協力のおかげで、爽やかな青空の下、2年ぶりの運動会を開催することができました。当日を迎えるために、「すべては子どもたちの笑顔のために」とPTA作業ですばらしい環境を整えていただきました。今年のスローガン「仲間と共に全笑するためかけぬける！」のもと、多くの方に応援を受け、運動会を終えた後には、「今までの練習の



成果を発揮できた」「楽しかった」と語る子どもたちの姿がありました。1、2年生にとっては、全校で集まり大きな行事を行うことが初めての経験となり、上級生の姿から自分もあんなふうになりたいとあこがれを持ったかもしれません。自分に負けないで全力を出し切る心地よさや、友達が精いっぱい取り組む姿の美しさを感じた人もいるでしょう。新型コロナウイルス感染防止による制限の中



で、友だちや先生とアイデアを出し合い工夫しながら作り上げてきた表現の中は、これまでの運動会にはなかったものがありました。その表現を作り上げる過程では、楽しさ以上に、悩みや困難もあったと思います。それを乗り越えて新しいものを生み出す喜びや楽しさは、これから先の見えない時代を生きていくために大切なものとして育まれたように思います。

「人権の花運動」贈呈式

「人権の花運動」は、花を子どもたちが協力して育てることによって、生命の尊さを実感し、その中で豊かな心を育み、優しさと思いやりの心を体得してもらうことを目的として昭和57年から全国の小学校で実施されています。今年度は、泉小学校でこの活動を飼育・園芸委員会が中心となって進めています。プランターに植え替えをしたきれいな花が登下校の子どもたちを迎えています。6月8日は、「人権の花運動」贈呈式が行われました。その時の学校長のあいさつを紹介します。



「人権」というのは、自分が自分らしく生きられる権利、世界中のどんな人も等しく持っている、誰からも奪われたり傷つけられたりということがあってはいけない大切な権利です。その「権利」を大切にすると、すなわち、自分も自分以外の人も大切にしていこうということ、みなさんがしてくれているように、いただいた花を大切にお世話していくということ、どのように関係しているのでしょうか。きっと、今年度の終わりには、みなさん一人ひとり、それぞれの答えが出てくると思います。その答えを、是非私に聞かせてください。

体験を通して学びを深める

6月7日、6年生が景観学習の実践編として、「佐久南インター景観をつくる会」の皆さんのご指導のもと、国道の両側の歩道で花植えの活動を行いました。子どもたちは、それぞれ分担した3つの区画の雑草を取り除き、そのうちの一つの区画に、サルビア、マリーゴールドの苗を植えました。ペアで相談してレイアウトを工夫し、学年全体で20箇所計300本の花の苗を植えました。暑い中、1時間半以上にも及ぶ作業でしたが、汗をかきかき、軍手を真っ黒にしてがんばってやりぬきました。これまで10年間、泉小の6年生が携わってきたこの事業を受け継ぎ、よりよい景観をつくるための力になったことをうれしく感じた子どもたち。ふるさとの美しい情景が醸成されていくことを願っています。



ICTの活用を目指して

1人1台のタブレットが配付され、本校でも子どもたちが実際に使い始めていますが、ICTの活用で目指すところを原山教育長の言葉を一部お借りしながら紹介します。

「予測困難な、変化の激しい時代を迎える」そんな社会に出て行く子どもたちが直面するのは、「答えがない」という事態ではなく、「何をどう問えばいいのかがわからない」という事態なのです。



「答え」というのは、常に「問い」とセットです。何をどう問うのか、その段階で枠組みが決まります。あとは、その枠組みの中で答えを導き出すということになります。与えられた問いに答えるという学習は、道具（知識）を身につける上で有効であり必要なものです。しかし、それだけでは、一生通用する「宝物のような力」にはなりません。

「問い」とは、言い換えれば「テーマ」です。「問いに答える」というのは、他者のつくった土俵に乗ることです。一方、「問いを立てる」というのは、テーマを設定することであり、土俵を自分でつくるということなのです。そのためには、自分の問題意識を掘り下げ、言語化することが必要です。そして、みんなに自分の土俵に乗ってもらい、それぞれが持つ道具（知識）を総動員して、最善の答えを導き出すのです。

「何をどう問うのか」「どういう問いを立てればいいのか」それはまさに、具体的な局面と対峙して初めて、立ち上がる疑問です。一つ一つの局面において、試行錯誤しながら、自分の頭で考え、経験を言語化し、そこから自分の原理原則を組み立てるといった体験を積み重ねることによって、身につけていくものだというふうに考えます。

そこで、ICTの活用がこれらの問題の解決として考えられます。

この先、ネットワークに集積したビッグデータをもとに、AIが、一人一人の子どもたちの反応に応じて、最適化された学びのプロセスをつくっていくということも、十分考えられるところであります。こうした学びによって、子どもたちは、もっと無理なく道具（知識）を身につけることができるかもしれません。

試行錯誤についても、ICTは、有望なツールだと思います。リアルはもちろん大変重要ですが、リアルだけにこだわってしまえば、制約された狭い範囲にとどまってしまいます。リアルでは、試行錯誤も簡単にはできません。ICTを活用することによって、自分の目の前の、手の届く範囲の現実世界を越えて、試行錯誤が可能になります。例えば、子どもたちがプログラミングという道具を手に入れば、自分で自由にテーマを設定し、世界を作り替える試行錯誤が容易に体験できます。これからは、ICTを活用し、リアルと組み合わせながら、様々な試行錯誤の体験を積み重ねることが重要だと思います。

7月の主な行事予定

1日（木）	安全点検日	13日（火）	学期末清掃（～21日）
5日（月）	相談週間（～16日）	16日（金）	第2回CS推進委員会 第2回学校運営委員会
6日（月）	第4回児童会	21日（水）	1学期終業式
7日（水）	3年生 野沢公民館体験（本校）	〃	集団下校
8日（木）	第2回支部児童会	22日（木）	夏休み（～8/19）
12日（月）	口座振替日	23日（金）	スポーツの日 利比っく開会式

PTAより

（1）8月21日（土）に資源回収を実施します。回収資源物のご提供、期日までの保持をよろしくお願い致します。